



## 夏のすごし方について



認定子ども園福光青葉幼稚園  
園長 横山 一乃

青く生い茂った木々、強く照りつける太陽、蝉の声、冷たく冷やした西瓜、かき氷、風鈴の音……。暑い夏がやってきました。

緊張と不安の中で迎えた4月、それから、今年度は感染症のため、登園自粛という期間を経て、ようやく一学期というひとつの区切りの時を持つようとしております。

夏の間には緊張していた心を思い切り開放させ、ゆったりとした時間帯の中で、親子・親族・友人との触れ合いを通して、豊かな人間関係が育まれますようにと願っております。

また、夏の雄大な自然とのふれあいの機会を通して、自然界の不思議さに目を留め、四季折々に変化する雲や空の様子、星空の美しさ、山々の変化に気付いて頂けたらと願っております。

そして、神様が造られた美しい自然に感動し、風を感じたり、小さな虫の動きを喜んで観察したり、花や野菜の生長を見たり、味わったりできる心も大切に育んでいきましょう。

目で見て、耳で聴き、手で触れ、鼻でかぎ、舌で味わう。そのような五感を十分に働かせる経験をたくさんさせてあげて頂きたいと願っております。

そして、お父さん、お母さんも少しだけ意識を変え、お子さんの声に耳を傾けてみましょう。意外と大人の口からは注意や要求ばかりが発せられ、子ども達のつぶやきの心の声を聴くことが少ないようになっていませんか。

子ども達の可愛く素敵な言葉やつぶやきをこの夏発見してみたいはいかがでしょうか。

不審者情報も耳にする昨今、お子様から目を離さず、くれぐれも注意してあげてください。また感染症対策も家庭でしっかりと習慣化して健康で怪我や事故のないよう、安全に気を付けてお過ごしください。



「主はすぐ近くにおられます。」(フィリピの信徒への手紙 4 章 5 節)

チャプレン 吉川光太郎

「どんなときでも」

「あなたは神を信じますか?」。このような質問をされたとします。あなたはその質問に何と答えるでしょうか。もしその時、あなたの日々の生活が豊かであり、順風満帆であり、何一つ問題のないものであったならば、余裕をもって「ええ、いると思います」と答えることができるかもしれません。実際はどちらでも良いのです。いてもいなくても何の支障もないというわけです。逆に、解決しない悩み、満たされない思い、悲しみや苦しみの出来事に遭遇している真っ最中ならばどうなるでしょうか。きっと多くの人が「こんな酷い目に遭っているのだ。神なんかいるはずがない」と答えるのではないかと思うのです。むしろ神の存在が自分にとって不都合にすら思えてくるのではないのでしょうか。

では聖書では、このことについてどのように記されているのでしょうか。聖書に登場するある金持ちは、目に見える富、食事、酒に心を奪われ、神様を忘れていました。当然神様を礼拝することもせずに、思うがまま、願うがままに自堕落に生きていたのです。彼も「神を信じますか?」と聞かれれば口先だけで「はい、信じます」と答えるかもしれません。ここまででは私たちと同じです。しかし、ここから先はそうではありません。私たちの考え方とは全く逆のことが起こっています。

信仰の父と呼ばれるアブラハムは神様に命じられ、80歳の時に旅に出るわけですが、その旅は先の分からない、そして多くの危険が伴うものでした。住む場所すら定まらず、オオカミや盗人が行き交う道を通らなくてはなりません。人に騙されたり、いわれのない暴言を受けることもあった。食べ物や飲み物に困ることもあった。これだけを見るならば、神などどこにいるものか!と思えるような悲惨な歩みかもしれません。しかし、アブラハムはどんな状況に陥ろうとも、どんなに悪いことが降りかかってこようとも、神様から離れることをしませんでした。状況が酷くなればなるほどに神様を礼拝することを常に第一にし、自分や家族の平和、日々の糧など、必要なものはすべて神様に委ねていたのです。一体何が彼をそうさせるのでしょうか。私たちとアブラハムの何が違うのでしょうか。もし違いがあるとすれば、それは神様が私を守ってくださる方であることを知っているかどうかにかかっているのです。神様はなんとなく寄り添う存在ではありません。私たちの前に立ち、様々な困難を打ち砕き、私たちを満ちし、力強く導いてくださる方です。だからこそ私たちは困った時こそ、神様の名を呼ぶのです。「主なる神様、どうかわたしを助けてください」と。

今まで神様のことを考えることはほとんどなかったかもしれません。しかし、もしあなたに困難が降りかかったならばイエス様のお名前を通して、主なる神様に祈ってみてください。今まで祈ったことなんかないのに、困った時だけ祈ってよいものだろうかと思われるでしょうか。しかし、たとえ都合よく神様の名を呼ぶ私たちであってもイエス様は見捨てません。まるで真っ暗な闇に指す一筋の光、長く暗いトンネルの出口から私たちを招き導いて助けてくださるのです。だからこそ助けを求めましょう。救い主なるイエス様は、あなたすぐ近くにおられます。

